

平成17年度 群馬大学教育研究改革・改善プロジェクト事業報告

— 特集 — グローバル時代における国際教育開発の学際的研究

— 研究会プログラム —

日時：2005年12月21日(水) 13:00~17:30

場所：群馬大学留学生センター 会議室 (大学会館3階)

主催：群馬大学留学生センター

[プログラム]

- 1) 挨拶 10分 <1時~1時10分>
田村 泰彦 (群馬大学留学生センター センター長)
- 2) 趣旨説明・問題提起 60分 <1時15分~2時15分>
野田 岳人 (群馬大学留学生センター 助教授)
- 3) 報告1「開発」 60分 <2時30分~3時30分>
松田 哲 (京都学園大学法学部 助教授)
- 4) 報告2「不服従」 60分 <3時45分~4時45分>
市川ひろみ (今治明德短期大学幼児教育学科 助教授)
- 5) 総合討論 20分 <5時~5時20分>
- 6) 挨拶 10分 <5時20分~5時30分>
松元 宏行 (群馬大学留学生センター 副センター長)

プロジェクトの趣旨

本研究では、従来教育学が対象としてきた初等教育、中等教育、高等教育、識字教育、職業訓練など、教育段階別のアプローチとは異なる視点を提示したい。具体的には、グローバル・イシューとして重要視されている、ジェンダー、言語、科学技術移転、紛争後の復興など教育とかがわる重要な新

たな問題群の検討である。本研究が大きな特徴を持ち、従来の研究へ示唆を与えるとすれば、①共通のテーマとして、留学生教育や研究者支援という人的養成の側面を有している、②教育学だけでなく、異分野からのアプローチも取り入れ、学際性を高めていることである。

日本の留学生政策である「留学生10万人計画」が達成され、「量から質へ」と教育内容の転換が求められている。また、群馬大学留学生センターの中期目標である教育プログラム等の充実という目標も内容をより充実したものへシフトしなければならない。こうした状況下で、途上国からの留学生に対して、技術や知識の習得を主たる目標としてなされてきた留学生交流も、新たな段階を迎え、グローバル時代に即応した普遍的な価値観や尊厳を持つ（持てる）ような教育を模索していかなければならない。本研究は、センターの中期目標を達成するために必要な学術的支柱となる。他方、こうした教育は留学生に対象を限定するというものではなく、日本人学生にも求められるものである。それゆえ、本研究は教養教育、専門教育にも示唆を与える、発展的で重要な側面をもっている。

（申請書からの抜粋）